

第3節 調査の方法

第1項 調査対象者

首都圏の公立高校に通う高校1年生141名。男子高校生74名、女子高校生67名。

第2項 調査方法

質問紙調査を実施した。

第3項 調査時期

平成11年3月中旬。

第4項 調査内容

質問項目を表I-1に示す。

表I-1 質問紙調査の質問内容

1. フェイスシート
2. 自我機能調査票 (EFI-2)
3. 道徳的人生観尺度
4. 感情的冷淡さ尺度
5. 学校適応-脱学校尺度
6. 教師関係尺度
7. 学校での交友関係尺度
8. 友人への同調尺度
9. 親の養育態度と親子関係尺度
10. 生活感情の構造尺度
11. 自己存在感のなさ尺度
12. 問題行動の実態と意識についての項目
13. 問題行動の被害者となったかについての項目
14. 友人との関係についての項目
15. 親との関係についての項目
16. アルバイトについての項目
17. 「非行少年」「不良」についての項目

1. フェイスシート

学年、性別、年齢、住居形態（1人暮らし、家族と同居、または寮）同居家族の構成についてそれぞれ尋ねた。

2. 自我機能調査票 (EFI-2)

自我機能調査票は、精神分析的自我心理学の観点からベラックによって開発された自我

機能評定法を参考として作成された自我機能について測定するための項目である。8下位尺度から構成されている自我機能調査票（中西・古市）を使用した。質問項目は72項目から構成されている。『以下の文章は、日ごろのあなた自身にどの位あてはまりますか？それぞれについて「5.あてはまる」から「1.あてはまらない」の中から、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけてください』という質問文を用意し、72項目それぞれについて5件法で回答を求めるものである。項目内容を表I-2に示す。

表I-2 自我機能調査票項目内容 (EFI-2)

<統合・統合機能-支配・有能性>

1. グループの中で、リーダーになることもでき、たんなるグループの一員であることもできる
2. 毎日の生活で規律正しい生活をしている
3. 全力を出して働いていると思う
4. 当然負わなければならない責任はすすんで負う
5. ゲーム（勝負事）には負けるより勝ちたいと思う
6. 自分の期待していたような暮らし方をしている
- *7. 自分は人生で落ちこぼれてしまっていると思う
- *8. 自分は物事のなりゆきまかせの生き方をしている
9. 全力投球して生きていると思う

<現実感覚>

1. 夢うつつの状態で歩き回っているような感じがする
2. 自分という存在に実感がもてない
3. 自分の身体が奇妙な感じがして自分のものでないような感じがする
4. 世界が崩壊しているような感じがする
5. 家で食事をする時は、人中で食事するときほど行儀はよくない
6. まわりの世界との接触をなくしたように感じることもある
7. 自分の目の前にあるものが、ひょっとしたら本当は存在していないのではないかと感じたことがある
8. 他人と話している時、ガラス戸をへだてているように感じることもある
9. 誰かにお前は駄目だといわれると、本当に自分が駄目な人間であるような気がする

<衝動統制>

- *1. ひどく腹がたった時でも、人前では、その気持ちを顔にあらわせないでいられる
2. 仲間にめいわくをかけた時、そのことに対して長い間、強い罪悪感を感じる
3. 物事に失敗した時、長い間、ゆうつな感情からぬけだせない
4. 時々口ぎたなく、ののしりたくなる
5. 仕事や勉強が少しでもうまくいかないと、ひどくがっかりしてしまう
6. 楽しくなったり悲しくなったり、感情の変化が激しいほうである
- *7. つらい時、悲しい時でも人前ではじっとこらえていることができる
8. 性的な感情が頭からはなれないでこまることもある
9. 不安になるとそれにたえられないで、イライラする

<対象関係>

- *1. 互いに信頼し、助けあえる友人がいる
- 2. 多くの人と親しくなるのは、あまり好きではない
- 3. おおぜいの者と一緒にいるよりも、ひとりであるほうが好きである
- 4. 私は知っている人全部が好きとはかぎらない
- 5. 常にみんなの注意が自分に向いていないと不満である
- 6. 他人とつきあっているとき、とにかく自分の心が傷つけられやすい
- *7. 自分には、多くの知り合いや友人がいる
- 8. 他の者から見すてられ、のけものにされているような気がする
- 9. 人の集まっているところに行くのがおっくうである

<防衛機能>

- 1. 何年も前の嫌な出来事や恥ずかしかった事をよく憶えているほうである
- 2. 他の人より、特別きれい好きである
- 3. まわりの人のために失敗させられることが多い
- 4. 下品な冗談を聞いて、笑うことがたまにある
- 5. 他の人に「何でも自分一人の責任だと思って悩む傾向がある」と言われたことがある
- 6. 心配症である
- 7. 奇妙な恐ろしい考えをもつことがある
- 8. 狭いところ（便所やエレベーター）にいと出られなくなるのではないかと不安になる
- 9. 人がこいまっている所がこわい

<刺激障壁>

- 1. 物音が気になってなかなか寝つけなかったり、すぐ目が醒めるほうである
- 2. 満員の電車やバスの中で、人に接触するのに耐え難くなることがよくある
- 3. 衣服の肌ざわりがわるいと、一日中気になって仕方がない
- 4. 部屋が明るいと寝にくい
- 5. しばしばはっきり原因のわからない頭痛がする
- 6. 天候や騒音、臭気など不快な環境にある時、すぐイライラする
- 7. 私は時々、腹を立てる
- 8. ちょっとした病気でもすぐ寝込んでしまう
- 9. 皮膚がよくかぶれたり、かゆくなったりする

<自律的機能>

- 1. 覚えておかなければならない事柄をふっと忘れてしまうことがよくある
- 2. いつもなら出来る身ぶりや動作が時としてうまくできないことがある
- 3. 読書するのがむずかしい
- 4. ふだんは、いつも何気なうやっっていることが急に難しく感じることもある
- 5. 自分で自分が無器用に思われてくることもある
- *6. ひまになると、日頃やっておきたかったことに手をつける
- 7. 自分の好きなこと、興味あることをやりとげるのに何か負担を感じることもある
- 8. その日の内にやらなければならないことを翌日まで延ばすことが時々ある
- 9. 仕事をやる気力がおとろえていると感じる

<現実検討>

1. 今までに、ある物事が本当に起こったのか、夢だったのかわからなくて困ったことがある
2. 時たま口に出して言えないような悪いことを考える
3. 物事が現実におこったのか、自分の心の中だけで起こったのかどうか迷った経験がある
4. たとえ周囲の人すべてが異を唱えても、自分はこれは現実のことだと確信したことがある
5. 幻覚をおこしたことがある
6. 錯覚をおこしたことがある
7. 科学的に説明できない不思議な音を聞いたことがある
8. 実際にいるはずがないのに、他の人間がいるのを見たことがある
9. 自分の要求や願望によって現実を歪めて見ることもある

*逆転項目

斜字は虚偽尺度項目

3. 道徳的人生観尺度

道徳的人生観尺度項目は、秩序、道徳、法律などの社会的規範を守り、礼儀、慎み、理性をもって事物に対応しようとする価値観の程度を測定する項目である。価値観尺度（辻岡・村山, 1975）のうち、道徳的人生観尺度項目を使用した。質問項目は12項目から構成されている。『以下の文章は、あなた自身の考えにどのくらいあてはまりますか？それぞれについて「5.あてはまる」から「1.あてはまらない」の中から、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい』と質問文を用意し、それぞれの項目について5件法で回答を求めるものである。質問項目を表I-3に示す。この尺度得点が高いほど、社会のルールや規範に従って生きていこうという道徳的な人生観が強いことを意味する。

表I-3 道徳的人生観尺度項目内容

1. 世の中の秩序に従うことは大事なことである
- *2. 道徳などを考えたりせずに、自分の生き方を貫きたい
3. 自分は社会のルールに従って生きていきたい
- *4. 自分の欲望を実現するためには道徳などにこだわらずに生きていきたい
- *5. 法律に縛られないで自由に生きていきたい
6. 慎みと知性にもとづいた秩序に従って生活したい
7. 社会の変化は急激にではなく慎重に行ってほしい
8. 礼儀を大事にして生きていきたい
9. 私情を捨て自制しながら生きていきたい
10. 自立した人間としえ理性に従って生きることを目標としたい
11. 何事にも自己規制が必要である
12. 世間の風潮には流されないで節度のある生活をしていきたい

4. 感情的冷淡さ尺度

感情的冷淡さ尺度は、他者の気持ちに共感する程度、感情的に暖かい程度を測定する項目である。情動的共感性尺度（加藤・高木、1980）のうち、感情的冷淡さ尺度10項目を使用した。『以下の文章は、あなた自身の考えにどのくらいあてはまりますか？それぞれについて「5.あてはまる」から「1.あてはまらない」の中から、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい』と質問文を用意し、それぞれの項目について5件法で回答を求めるものである。質問項目を表I-4に示す。この尺度得点が高いほど、感情的に冷たい傾向があることを意味する。

表I-4 感情的冷淡さ尺度項目内容

-
1. 私は人がうれしくて泣いているのを見ると、しらけた気持ちになる
 2. 私は他人の涙を見ると、同情的になるよりも、いらだってくる
 3. 私は不幸な人が同情を求めるのを見ると、いやな気分になる
 4. 私は友人が悩みごとを話し始めると、話をそらしてくなる
 5. 私はまわりの人が悩んでいても平気でいられる
 6. 私は人がどうしてそんなに動揺することがあるのか理解できない
 7. 私は他人が何かのことで笑っていても、それに興味をそそられない
 8. 人前もはばからずに愛情が表現されるのを見ると私は不愉快になる
 9. 私はまわりが興奮していても、平静でいられる
 10. 私は映画を見ていて、まわりの方の泣き声やすすりあげる声を聞くと、おかしくなることがある
-

5. 学校生活に対する意識尺度

この尺度は、学校に対してどのような意識をもっているかを測定する項目である。学校生活への適応度の高さを測定する尺度（15項目）と、仲間との連帯志向の強さを測定する尺度（11項目）から構成されている。『次のことがらについて、あなた自身にどのくらいあてはまりますか？「5.あてはまる」から「1.あてはまらない」までのなかから、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけてください。』と質問文を用意し、それぞれの項目について5件法で回答を求めるものである。質問項目を表I-5に示す。この尺度得点が高いほど、現在の学校生活に適応的であり、仲間との連帯志向が強いことを意味する。

表 I - 5 学校生活に対する意識尺度項目

<仲間志向－孤立志向尺度>

1. 友だちと一緒にいると楽しい
2. 友だちとできるだけ交わるようにしている
3. 親しい友だちがいる
4. 勉強以外のことを友だちとよく話す
- *5. 友だちにはあまり大事なことは話さない
- *6. 友だちとのつきあいがうっとうしいと思う時がある
- *7. 仲のよい友人グループを持っていない
- *8. 友だちとのつきあいよりも、自分のことを大切にする
- *9. 友だちと一緒にいるより1人の方が気が楽だ
- *10. 友だちと一緒にになって勉強や遊びのグループをつくるのはいやだ
- *11. 友だちから相手にされなくてもかまわない

<学校適応－脱学校尺度>

1. 今の学校生活に満足している
2. 学校での勉強は、将来の生活や職業に役立つと思う
3. この学校に対して親しみを感じる
4. 先生には安心して何でも相談できる
5. 学校で受けている授業はよく理解できる
6. 学校の規則はよく守る方だ
7. 学校の先生に対して親しみを感じる
8. この学校の生徒であることを誇りに思う
- *9. 学校に行きたくないと思うことがある
- *10. 学校に対して反発を感じる
- *11. 学校の授業は時間のむだだと思うことがある
- *12. 授業中でも、おもしろくなければ別のことをしていてもかまわないと思う
- *13. 授業を受けているのが苦痛である
- *14. 学校を休みたいという気持ちになる
- *15. 私にとって学校は居心地が悪い

*逆転項目

6. 教師関係尺度

この尺度は、教師との関係について測定する項目である。学校生活適応感尺度（高瀬他，1986）のうち、教師関係尺度を使用した。この尺度は6項目から構成されている。『次のことがらについて、あなた自身にどのくらいあてはまりますか？「5.あてはまる」から「1.あてはまらない」までのなかから、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけてください。』と質問文を用意し、それぞれの項目について5件法で回答を求めるものである。質問項目を表I-6に示す。この尺度得点が高いほど、教師と良い関係を持っていると感じていることを意味する。

表 I - 6 教師関係尺度項目

-
1. 私には、この学校で何でも相談できる先生がいる
 2. 私は、この学校の先生と話をする機会を持つようとしている
 3. 私には、まるで友達のように親しみを感じる先生が、この学校にいる
 4. 私は、この学校の先生と気軽に話せる
 5. 私は、この学校の先生を信頼している
 6. 私は、先生によく質問をする
-

7. 友人への同調尺度

外面的な友人への同調行動をとる程度を測定する尺度であり、交友関係に関する項目（上野ほか, 1994）のうち、友人への同調に関する項目（4項目）を使用した。『次のことがらについて、あなた自身にどのくらいあてはまりますか？「5. あてはまる」から「1. あてはまらない」までのなかから、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけてください。』と質問文を用意し、それぞれの項目について5件法で回答を求めるものである。質問項目を表 I - 7 に示す。この尺度得点が高いほど、友人への同調性が強いことを意味している。

表 I - 7 友人への同調尺度項目

-
1. できるだけ仲間と同じように行動したい
 2. 何をするにも皆と一緒にだと安心する
 3. 仲間はずれにされるのは絶対にイヤだ
 4. 流行遅れになるのはイヤだ
-

8. 親の養育態度と親子関係尺度

子どもに対する親の養育態度や、親子関係について測定する項目である。自分の家庭を良いと感じ、家族から愛されていると感じる程度を測定する親への愛情尺度（福富ほか, 1998）と、子どもに対する親の養育態度を測定する養育態度尺度（東京都生活文化局, 1982）の項目を使用した。『あなたとご両親との関係についてお聞きします。以下の文章について「1. はい」「2. どちらでもない」「3. いいえ」のうち、あてはまるものに○をつけて下さい』と質問文を提示し、回答を求めるものである。18項目から構成されている。項目内容を表 I - 8 に示す。

表 I - 8 親の養育態度と親子関係尺度項目

1. 父は私に対して暖かい
2. 父は私の気持ちをわかろうとしている
3. 父は頼りがいがある
4. 将来、父のような生き方をしたい
5. 父を尊敬している
6. 母は私に対して暖かい
7. 母は私の気持ちをわかろうとしている
8. 母は頼りがいがある
9. 将来、母のような生き方をしたい
10. 母を尊敬している
11. 私の両親は仲がよい
12. 父から私は十分愛されていると思う
13. 母から私は十分愛されていると思う
14. 将来、両親のような家庭を築きたい
15. 父は何かにつけて私の行動に口をはさむ
16. 父は何かにつけて自分の考えを押しつけようとする
17. 母は何かにつけて私の行動に口をはさむ
18. 母は何かにつけて自分の考えを押しつけようとする

9. 生活感情の構造尺度

青年期の生活感情の全体的な構造を明らかにするために作成した尺度である（内田, 1990）。他者との関係で感じる領域である「対人関係の領域」、自己に関わる感情の領域である「自己認知の領域」、日常の生活の中での現実的な目標に関わる感情である「現実目標の領域」、将来を展望することにより生じる感情の領域である「理想目標の領域」という4領域に分類されている。『あなたは、日ごろ自分自身についてどのように考えていますか？以下のそれぞれの文章について「5. あてはまる」から「1. あてはまらない」の5つの中から、自分にもっともあてはまるもの一つ選んで、数字に○をつけてください』と質問文を提示し、回答を求めるものである。本調査では、生活感情の構造尺度域のうち、「自己認知の領域」「現実目標の領域」「理想目標の領域」の3尺度を使用する。それぞれ8項目から構成されている。項目内容を表 I - 9 に示す。

表 I - 9 生活感情の構造尺度内容

<p><自己認知の領域></p> <p>1. 私は自分のよさがわかっていると感じる</p> <p>2. 今の自分に誇りを持っていると感じる</p> <p>3. 私は有能で可能性に富む人間であると感じる</p> <p>4. 私には人より優れた何かがあると感じる</p> <p>*5. 自分の性格や能力についてよく悩んでいると感じる</p> <p>*6. ちょっとしたミスで気がめいってしまうように感じる</p> <p>*7. 私は今の自分が嫌いであると感じる</p> <p>*8. 自分がとても情けなくなることがよくある</p> <p><現実目標の領域></p> <p>1. 日々の生活の中に熱中できる（没頭できる・打ち込める）ことがあると感じる</p> <p>2. 日々の生活の中で何かを成し遂げる喜びを感じている</p> <p>3. 日ごろはりのある生活を送っていると感じる</p> <p>4. 私は日々の生活の中で生きる喜びや実感を味わっていると感じる</p> <p>*5. 私にはやって楽しい事とか興味のもてる事はほとんどないように感じる</p> <p>*6. 日ごろ何をすべきか自分にもよくわからないような気がしている</p> <p>*7. 毎日していることに大した意味を見いだせないように感じている</p> <p>*8. 日ごろ何もする気がしないことがよくあると感じる</p> <p><理想目標の領域></p> <p>1. 私は自分に適したまたは理想とする職業に就くことができると感じる</p> <p>2. 私は自分の将来に希望を持っていると感じる</p> <p>3. 私は生きていく上での目標があると感じる</p> <p>4. 私は自分の生き方は自分で決められると感じる</p> <p>*5. 私は自分の生き方に確信を持っていないように感じる</p> <p>*6. 一生懸命努力しても自分の将来は大したことはないように感じる</p> <p>*7. 将来社会に出てもうまくやっていけそうもないように感じる</p> <p>*8. 私は自分の将来の生き方や人生について真剣に考えていないように感じる</p> <p>*逆転項目</p>

10. 自己存在感のなさ尺度

自分自身の存在感のなさを感じている程度を測定する尺度である。自己の存在感のなさ尺度（福富ほか, 1998）を使用した。『あなたは、日ごろ自分自身についてどのように考えていますか？以下のそれぞれの文章について「5. あてはまる」から「1. あてはまらない」の5つの中から、自分にもっともあてはまるもの一つ選んで、数字に○をつけてください』と質問文を提示し、回答を求めるものである。本尺度は6項目から構成されている。項目内容を表 I - 10に示す。この尺度得点が高いほど自分自身の存在感のなさを感じていることを意味している。

表 I - 10 自己存在感のなさ尺度項目

-
1. 私の代わりは世の中にたくさんいる
 - *2. 私はかけがえのない存在だ
 3. 私がいなくても、だれも困らない
 4. 私がどうなっても、悲しむ人はいない
 5. 私のことを心から心配してくれる人はいない
 6. だれも私を相手にしてくれないような気がする
-

*逆転項目

11. 問題行動の実態と意識についての項目

「飲酒」「無免許運転」「バイクや自転車などの窃盗」「金品の窃盗」「恐喝」「傷害」「薬物使用」「軽い援助交際（お茶やデート、カラオケなど）」「重い援助交際（性的な行為を含む）」「性的行為の強制」のそれぞれの行動について、それぞれの行動の経験の有無、行動に対する価値観、友人がやっていたら止めるか否か、友人からの反応の予測、行動したきっかけなどについて、尋ねる項目である。『〇〇という行動について、普段のあなたの行動や考え方にあてはまるものを一つ選んで○をつけて下さい』と質問文を用意し回答を求めるものである。

表 I - 11 問題行動の実態と意識についての質問項目

-
- 「〇〇という行動」を強要することは…
 1. 全くない
 2. 1～2度ある
 3. 時々ある
 4. よくある
 - 「〇〇という行動」するのはいけないことだと思う
 1. 全く思わない
 2. あまり思わない
 3. どちらでもない
 4. ややそう思う
 5. とてもそう思う
 - 身近な友達が「〇〇という行動」をしていたら友達をとめると思う
 1. とめない
 2. あまりとめない
 3. どちらでもない
 4. ややそう思う
 5. とてもそう思う
 - 〇〇という行動を強要したら、身近な仲間・グループからは…
 1. 別に何も言われなと思う
 2. 嫌われると思う
 3. やめるように注意されると思う
 4. その他
 - 相手の意志に関係なく「〇〇という行動」を強要しようと誘われて断ると、身近な仲間・グループに…
 1. 居づらいと思う
 2. 仲間から外される
 3. 特に関係ない
 4. その他 ()
 - あなたが「〇〇という行動」を強要したきっかけについて、あてはまるもの全てに○をつけて下さい。
 1. やらない
 2. 友達に誘われた
 3. イライラしていたから
 4. 自分がやりたかったから
 5. 周りのみんな（友達）がやっていたから
 6. 何となく
 7. 好奇心から
 8. 淋しいから
 9. その他 ()
-

12. 問題行動の被害者となった経験についての項目

問題行動の被害者となった経験があるかについて尋ねる項目である。『以下の項目について、あなた自身が被害を受けたことがあるもの全てに○をつけて下さい』と質問文を用意し、回答を求めるものである。質問項目について表 I-12 に示す。

表 I-12 問題行動の被害者となった経験について

1. 自転車やバイクを盗まれた	2. お金や物を盗まれた	3. 性的行為を強要された
4. 理由もなく他人から暴力をふるわれた	5. 援助交際をもちかけられた	
6. 脅されてお金や物をとられた	7. その他	

13. 友人との関係についての項目

友人との関係について尋ねる項目である。同性の親しい友人、異性の親しい友人、同性の親友、異性の親友、及び一対一で交際している恋人がいるかどうか、またその大体の人数について尋ねるものである。

14. 親との関係についての項目

父親と母親との関係について尋ねる項目である。『あなたとお父さん（お母さん）との関係は・・・』と質問し、両親それぞれについて「大変良い」「やや良い」「やや悪い」「大変悪い」の4件法で回答を求めるものである。

15. アルバイトについての項目

現在アルバイトをしているか、しているとしたら1ヶ月にどの位の金額をアルバイトで稼いでいるかについて尋ねた。また、親からおこづかいをもらっているか、もらっているとしたらいくらもらっているかについて尋ねるものである。

16. 「非行少年」「不良」についての項目

自分自身が非行少年または不良だと思うか、また、非行少年のイメージや印象について自由に回答を求めるものである。